

1. 特に効果的であり改善に資した事例について

A. コースワークの充実・強化

②分野横断的な科目群、副専攻科目群等の充実

《医療系》

●京都大学薬学研究科

「実践的創薬戦略家養成プログラム」の事例

(具体的に何を実施したのか)

実践型創薬研究に関する参加型教育を目的として、製薬企業の研究者や厚生省・医薬品機構の官僚を非常勤講師とする医薬品に関する知的財産、医薬品開発や認可マネジメントなどの新機軸となる講義コース、さらには国際学会における成果発表や国内外機関における共同研究を含む学外研鑽を導入したコースワークを大学院カリキュラム（副専攻コース3単位）を策定・提供した。

(実施に当たり特に考慮・工夫したことや、注意を払ったこと)

医薬品の知的財産に関する適切な教科書や実習がないため、企業知財部や特許事務所との共同で独自の学習資料を作成し、インターネットによる特許検索などを含む課題解決型の演習を策定した。

(どのような結果が得られたのか、どのような良い影響があったのか)

新薬開発における知的財産権の重要性が周知されるとともに、学外機関における共同研究の遂行において実験データを含む知的財産に関する適切な取り扱いへの理解が深化した。

1. 特に効果的であり改善に資した事例について

E. 学習・研究環境の改善

②国内外の学会発表、実習等に対する経済的支援の充実

《医療系》

●京都大学薬学研究科

「実践的創薬戦略家養成プログラム」の事例

(具体的に何を実施したのか)

教育コースの履修生のみならず、薬学研究科と生命科学研究科の大学院生に対して、国際学会における成果発表や国内外機関における共同研究を含む学外研鑽を奨励し、TA・RA費を支給することで経済的支援を実施した。

(実施に当たり特に考慮・工夫したことや、注意を払ったこと)

本プログラムによるTA・RA費の支給は限定的であるため、教育コースの履修生で海外研究研鑽の希望者に対しては、学内運営費を活用した所属研究室からの経済的支援の拡充を図った。

(どのような結果が得られたのか、どのような良い影響があったのか)

大学院生の内向き志向と就職難の社会情勢を反映して、海外機関における研究研鑽の希望者は減少しているが、所属研究室と本プログラムによる協調した経済的支援により志望者が有る程度回復した。